

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



(小田原城)
東海道第九宿

東海道
五十三次

小田原(おだわら)

東海道有数の大宿、江戸を公認して初めての城下町でもある。小田原宿は猿蓑峠を控えていることから宿泊客が多く、東海道有数の宿場として栄えた。宿内の街道には城下町特有の「カヤの手」折れ曲がった杉形がある。かつての宿場の町名が細かく表示されているので、これを頼りに歩くのもよいだろう。



名物の小田原提灯は宿内の鍋町住人が、江戸時代初期の作りにとどめてきた。携行に便利なように、紙の部材がまろやかで、ペタンコにたたためるよう工夫されている。(明治四年創業の梅子 らん里う本店) 小田原城主の北条早雲は梅子の薬効と日持ちのよさに目をつけ、小田原名産として旅人のみやげにした。

小田原の名産といえ、まず東海道名所記が東海道の名物だとする外郎で、下かに梅漬イカの塩辛、カネのたじ、提灯などがあつた。ウメ餅がとおもつたら、くすりみせだは、中国より渡米した外郎家が製造。当初は万病に効くという薬だった。

外郎家の祖先は約600年前の室町時代に足利将軍に招かれた中国の外を営んだ。京都に定住するにあたり、万病に効病に効く薬の製造を家業とする。薬の名は正しく「透頂」というが、主人が「陳外郎」と名乗るを一般には「うめ餅」知られた。

名物
提灯、梅漬、外郎
蒲餅、透頂杏

